

アオバト (Japanese Green Pigeon)

どんな鳥？

アオバトは全長 33cm の中型のハトで全体が緑色の美しい羽色です。頭から胸にかけては黄色味が強く、腹部は白っぽい色です。雄は翼の肩の部分がアズキ色なので、雌との見分けが容易です。成鳥のくちばしとアイリングは雄、雌ともにライトブルーです。幼鳥の雄は肩のアズキ色がまばらなので成鳥と見分けることができます。

(学名 *Treron sieboldii* / トレロン シーボルディー)



アオバトの雄

どこで観察できるの？

夏は丹沢山地で生息していますが、巣が確認されたことはほとんどありません。5月から11月にかけて、遠く離れた丹沢から照ヶ崎に群れで飛来します。岩場の窪みで海水を飲んだり、海面に浮かんだり、尾羽や脚を海水に浸けるという不思議な行動が見られます。高麗山や鷹取山などでは「オーウォー、オーウォー」と鳴く声が聞かれることもあります。冬は西日本で多く観察されています。



アオバトの雌



海水を飲むアオバト雄

なぜ海水を飲むの？

本当のことはまだよくわかっていませんが、果実を主とした食事では不足がちになる塩分を補うために、海水を飲むのではないかと推測されています。

数はどのくらい？

照ヶ崎での観察記録では、一度に見られた最大の群れは 440 羽でした。一日の飛来総数の最大は約 2,800 羽です。

何を食べているの？

アオバトが海水を飲むために降りる岩場から糞を採取し、糞に含まれる種をもとに、何を食べているのか調べました。その季節に多量の実をつける植物の果実を食べていることがわかりました。グラフに示したものが主要な餌で、果実が熟す順番に利用しています。

果実名	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ヤマザクラ		■	■	■		
キイチコ類		■	■	■		
ヤマグワ			■			
クマヤナギ			■	■	■	■
ミヤマザクラ			■	■	■	
ミスキ			■	■	■	■
クマノミスキ					■	■
エビツル					■	■
ヤマブドウ					■	
アオハダ					■	■
ムクノキ						■

ミヤマザクラとヤマブドウの種が見つかりましたが、この2種類は大磯・平塚周辺には分布しておらず、丹沢山地の標高 1,000m 以上の限られた地域のみ分布していることが明らかになっており、このことからアオバトが丹沢山地から照ヶ崎に飛来していることが裏付けられました。



ドングリをくわえるアオバト雄

果実の少ない冬にはドングリを食べているのが西日本で観察されています。